

04.『街のテクスチャ』

街でみかけた建物や看板や壁面といった、「あれはナニ?」と気になったものを取り上げていきます。



西区の交差点、「明道町」と「菊井町」の間に見えるこの神々しいサインボード。弊社からもよく見える愛知葬祭さんの看板はいつも光り輝いて目立っています。特にこの日差しが厳しい季節にはその輝きも増してありがたく見えてきます。ちょうどお盆迎えるタイミングと、広告塔としての役割の高さは正に「ピカイチ」です。

05. しんみち・採集記

安田印刷工業の近くでみつけたグルメや商品などを紹介していきます。今回はネパール料理です。



菊井町交差点角にあるインドネパール料理店でカレーが人気なのですが、なぜかメニューにあった「豚キムチ丼」が気になって注文。サラダとチキンティッカとドリンクがついて1,090円と高コスパ! ご飯の量もボリューム満点でした。カレーはもちろん様々なネパール料理が食べられます。

Dailo 菊井町店【営業時間：11:00～15:00/17:00～23:00・不定休】
名古屋市西区新道 2-15-13 2F（名古屋駅から徒歩約 12 分）

06. Tomo's TALK 代表取締役社長 安田 智雄のコラム



日本の夏は、かつての記憶とはまるで違うものになりつつあります。子どもの頃、33度で「今日は本当に暑いね」と話していたのが、今では笑い話のようです。最近では40度を超える地域も珍しくなく、子どもたちが屋外で元気に遊ぶ姿さえ見かけにくくなりました。海流の変化で魚が取れる場所が変わったり、異常気象が農業へ影響を与えたりと、気候の変化は目に見える形で私たちの日常に迫っています。かつて脚本家の倉本聰さんは、この状況を「地球温暖化」ではなく「地球高温化」と表現しま

した。その言葉どおり、問題はより深刻さを増しているように感じます。二酸化炭素の排出削減は重要ですが、それだけで解決できるのか疑問も残ります。極端な話、地球を覆うような巨大なシートでもない限り、この暑さを防げないのではと思うほどです。今後50年、100年を考えると、気温はさらに上昇すると言われています。だからこそ本来なら、今すぐにでも世界が一丸となって対策を進めるべきでしょう。しかし、二酸化炭素排出量の多い国々の利害が一致せず、十分な取り組み



が進んでいるとは言い難いのが現実です。地球環境の問題は一国だけでは解決できません。未来の子どもたちが安心して外で遊べる夏を取り戻すために、世界中が危機感を共有し、行動を起こすことが今こそ求められています。



お客様の思いを伝えることがYASUDAの使命です。

2026年7月末日 発行
発行者:安田 智雄
発行所:〒451-0043
名古屋市西区新道2丁目13番10号
安田印刷工業株式会社
TEL.052-533-0088
FAX.052-571-1200

SNS・HPは
こちらから



SDGs宣言企業を
応援いたします。

安田印刷工業がお手伝いいたします

各種印刷物からWeb、広告、販促物などお客様の思いを伝えることならお気軽にご相談ください。

【印刷物一例】名刺／DM／チラシ／ポスター／冊子／カタログ／リーフレット／POP UP／のぼり／懸垂幕／横断幕／パッケージ etc.

【経営理念】『球角球』お客さまの要望に応え 自らの成長を志し お客さまを創造し続ける

YASUDA
PRINTING CO., LTD.

より良い印刷のためにできること

SOUZOU

August 2026
Vol.
63
TAKE FREE

01. Print of Creative

モニターの中と外、色の「翻訳家」たち

02. Movie's EYE

「ヌーヴェルヴァーグ」

03. 今月の推し紙

04. 街のテクスチャ

05. しんみち・採集記

06. Tomo's TALK Overview

Yasuda Printing Co.,Ltd

01. Print of Creative

現場で聞きたいいろいろなお話

モニターの中と外、色の「翻訳家」たち

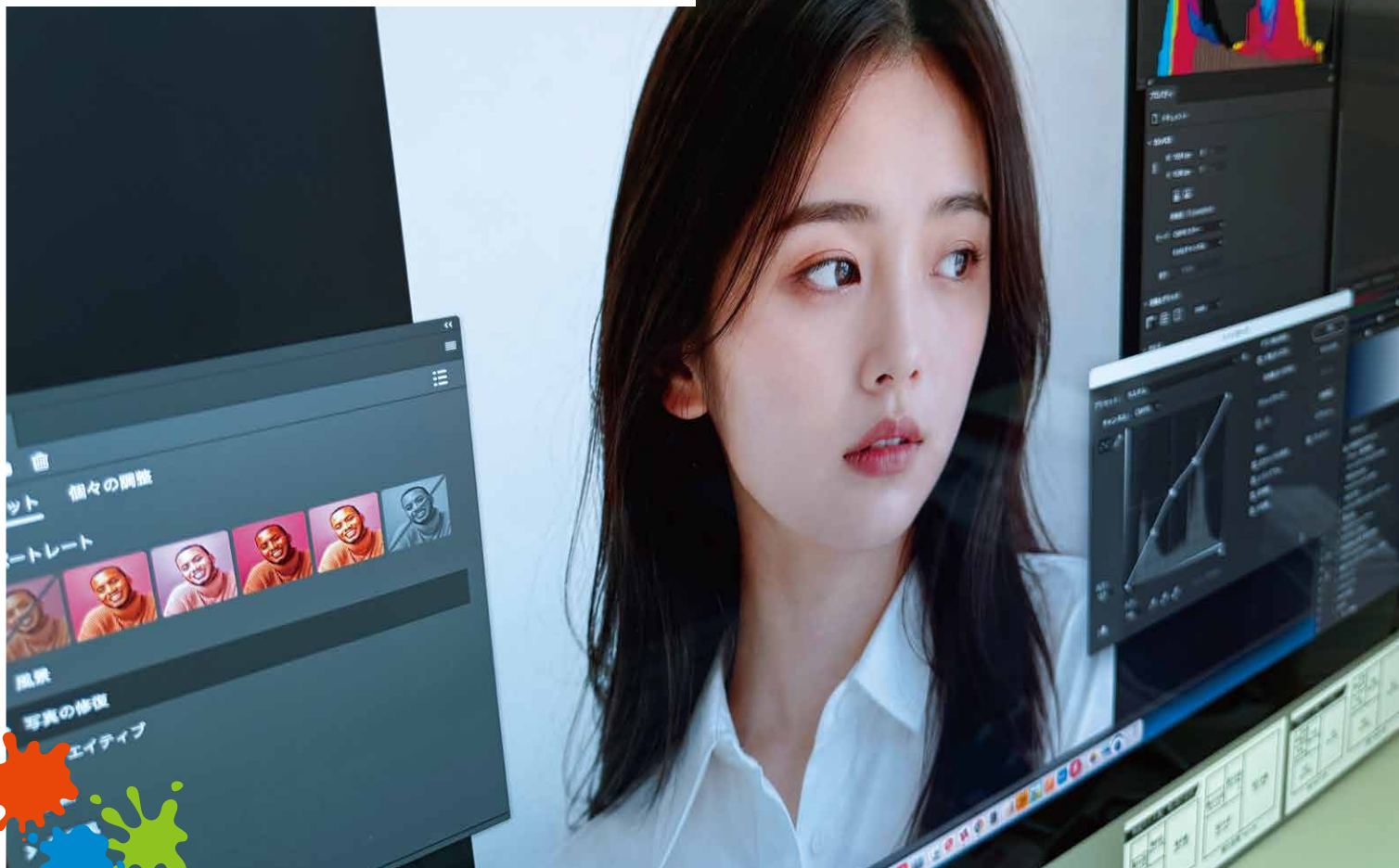
パソコンのモニターで見ていた写真や色がそのまま印刷機で出てくると思いがちですが、印刷出力に合わせて画面上のデータを最適化する調整作業で再現されているようです。

パソコンの画面で見ていた色が、印刷するとくすんでしまうのはなぜですか？

ディスプレイなどは「RGB(光の三原色)」の階調で表現されていますが、印刷は「CMYK(インキの四色)」での表現になります。この二つは根本的に仕組みが異なるものです。RGBの鮮やかな光をCMYKのインキに変換すると、色を混ぜるほど暗くなっていく性質があるため、そのままではどうしても色がくすんで見えてしまうんですね。そのため、基本的には「画面と実際の印刷物は色が違う」という前提をお客様と共有した上で、必要に応じて実際の紙に出した「校正紙」を直接見ていただくなどして、イメージのズレを防いでいます。

具体的には、印刷機へ回す前にどのようなデータチェックをされているのですか？

お客様からいただいたイラストレーターやフォトショップなどのデータを、まずはカラーモードがRGBからCMYKに正しく変換されているか確認します。そこから、仕上がりサイズと寸法が合っているか、トンボ(目印)は付いているか、裁ち落とされる部分の「塗り足し」がきちんと確保されているかなど、データ上の不備を徹底的にチェックします。その後、印刷用のPDFデータに変換し、紙のサイズに合わせて何丁配置するかという「面付け」の作業を行って、次の印刷工程へバトンを繋ぎます。



■印刷で表現される色を想定しながら専用アプリを使って色調や彩度、トーンなど調整をしていく。

データを調整する際、どのような点に一番神経を使われていますか？

印刷した後に「刷り直し」が起こらないよう、印刷するための「完全データ」を仕上げることに最も神経を使っています。一口に印刷と言っても、上質紙やコート紙、マット紙など、選ぶ紙の種類によってCMYKの数値が全く同じでも実際の発

色や見え方はガラリと変わってきます。ここで私たちがデータの段階で完璧な処理をしておかないと、せっかくの紙やインキが無駄になってしまいますから、後の工程を常に意識してチェックしています。

特に調整が難しい「厄介な色や絵柄」はありますか？

私の経験上では、紺色やオレンジ、緑、そして何より「人物の肌色」ですね。肌色は非常にブレやすく、わずかな差で赤みが抜けて顔色が悪く見えてしまったりするので本当に神経を使います。また印刷では、背景に濃い赤ベタや青ベタが配色されていたりすると、その背景色に引っ張られて肌色の印象が変わってしまうこともあるため、全体の色のバランスには常に細心の注意を払っています。それだけ色というのは、隣り合う要素や本当にごくわずかなバランスの差で、見え方がガラリと変わってしまう繊細なものなんです。

それほど繊細ということは、データの数値を「ほんの1%」変えるだけでも、実際の仕上がりは変わるものなのですか？

はい、1%単体では気づきづらいかもしれませんが、実際に印刷されたものを見比べてみると、全体のトーンや色味は確実に変わって見えます。私たちはデータの段階でも、また実際に印刷に

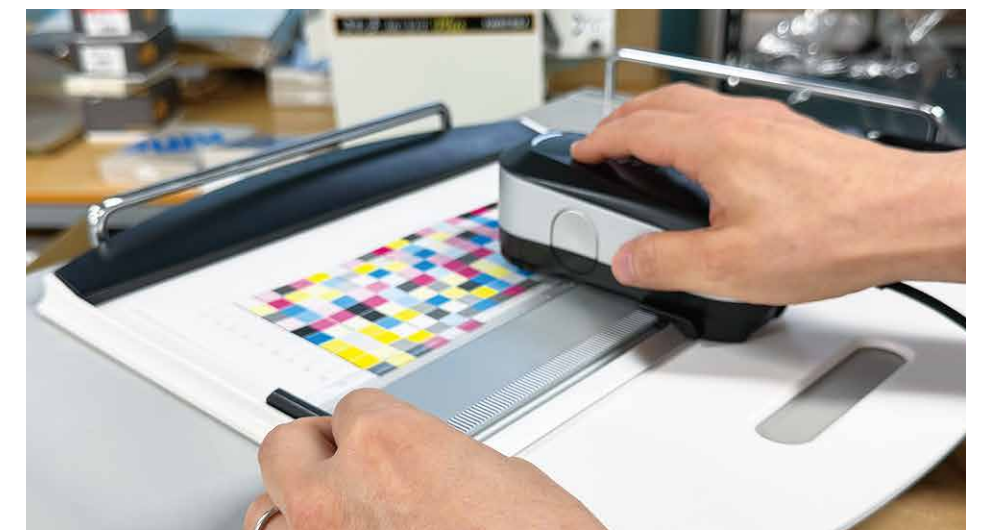
回す際にも、数パーセント単位の微調整を加えたり、明暗を少し変えてみたりという作業を頻繁に行っています。その1%の積み重ねが、仕上がりの艶やクオリティを左右するのです。

最近はオンデマンド印刷を使うことも多いですが、オフセット印刷との色の違いはどうコントロールしているのですか？

そこはまさに永遠のテーマであり、私たちが一番挑戦しているところです。本来、オンデマンドとオフセットで色が違うということはあってはなりません。それを起こさないために、私たちは機械でしっかりと数値を算出し、データ上で色味をできるだけ調整して揃えるという形を取っています。そのための高度な管理マシンの導入といった設備投資も含めて、常に高い精度で色が揃うように環境を整えています。

このポジションにおける、担当者としてのやりがいを教えてください。

自分が細部までいじったデータが、実際の紙や印刷物という目に見える形になって出来上がってきたときですね。自分の狙った通りの美しい色味で表現でき、お客様に何の問題もなく喜んで受け取っていただけた瞬間は、まさに「縁の下の力持ち」としての大きな達成感とやりがいを感じます。



■モニターだけではなく、プリンターのキャリブレーションを行うことで見た目のズレを最小限に止めるようにする。

02. movie's EYE「ヌーヴェルヴァーグ」



この時代にモノクロ映画を映画館で観るということ。

1960年代、フランスで起きた映画運動「ヌーヴェルヴァーグ」。スタジオ撮影が常識だった当時、その慣習を打破し、世界の映画表現を大きく変えるきっかけとなりました。本作は、その中心人物であるジャン＝リュック・ゴダールが、名作「勝手にしやがれ」を完成させるまでの舞台裏を描いています。自分自身、同作は未見でしたが、昨年観たイタリアのモノクロ映画の新鮮さに魅了され、この革新的な手法が生まれたと言われる背景に関心を持ち鑑賞してみました。

ただ、本作はあえて古い作風を演出しているためか、物語自体は期待したほどの面白味には欠ける印象です。それでも、作中のジョークとも嫌みともつかない独特な掛け合いなど、昔のフランス映画特有の、ハリウッド作品とは一線を画す「お洒落な空気感」は随所に漂っています。映画としての推奨度は低めではあるものの、たまにはスクリーンの良い音響とシンプルなモノクロ映像に身を浸し、その独特な世界観に浸ってみてはいかがでしょうか。

03. 今月の推し紙

今回ご紹介するのは、大王製紙さんが展開するレーザープリンター専用の耐水・高耐久性合成紙(白PETフィルム)「レーザーピーチ」です。



この「レーザーピーチ」は、ラミネート不要で屋外掲示物やPOPが作れるレーザープリンター専用の耐水合成紙です。ほとんどの製品が環境に配慮したリサイクルPET素材(WEFY/SEFYシリーズなど)へ順次切り替えが行われており、水や破れに強く、屋外ポスターや飲食店メニューなどにも最適です。